

ホームライフ

The Home Life

復刻版 ● 全17巻 ● 全2回配本

監修 ● 毎日新聞大阪本社

解説 ● 津金澤聰廣 (関西学院大学名誉教授)

第1回配本 [全8巻]

B4判上製・函入・総2,536頁

昭和10(1935)年8月～昭和12(1937)年12月

揃定価299,250円(本体285,000円+税) ※分売不可

ISBN978-4-7601-3276-8 C3330

第2回配本 [全9巻]

B4判上製・函入・総2,820頁

昭和13(1938)年1月～昭和15(1940)年12月

揃定価299,250円(本体285,000円+税) ※分売不可

ISBN978-4-7601-3294-2 C3330

軍国主義と戦争の礎が
迫り来る昭和前期に創刊され、
美しい日本と日本人の姿を活写した
幻の高級グラフ雑誌を完全復刻!

三月

皇族、華族をはじめ、政治家、高級将校、
企業経営者、大学教授、
作家などの家庭を被写体に、
カメラは庶民の手が届かない
知られざる世界を写していた。

写真総点数
12,000点以上

柏書房

〒113-0021 東京都文京区本駒込 1-13-14
TEL.03-3947-8251(営業) FAX.03-3947-8255
URL : <http://www.kashiwashobo.co.jp/>
E-mail : eigyo@kashiwashobo.co.jp

大阪毎日新聞社 東京日日新聞社

本書を推薦します

(五十音順・敬称略)

モダンな風俗の映像記録

国際日本文化研究センター勤務 井上章一

今、おしゃれな暮らしをてほどこしてくれる写真や読みものは、みな東京からとどけられてくる。しかし、1930年代までは、大阪が、上方がハイライフのお手本となっていた。神戸経由のモードによそおわれた令嬢たちが、そのあで姿で全国からあこがれられていたのである。『ホーム・ライフ』は、いわゆるモダンな風俗の映像記録として、研究者にかかせない資料となるだろう。だが、私はこれを、関西がまだかがやいていた時代の遺品としても、ある種考古学的な想いをこめて、ながめている。

日用品や室内のデザインを知る貴重資料

武蔵野美術大学教授 柏木博

日本では、残念ながらいまだにデザインを歴史的に展示する公的な博物館がない。また、そのこととも関連しているが、日用品や家具などあらゆるものが廃棄され、半世紀前のものすら確認することが難しくなっている。1935年から40年にかけての日本のモダニズムとその生活文化を写真によって捉えた本書は、したがって、30年代の日用品や家具のデザインを知る実に貴重な資料となっている。30年代モダニズムの中で、どのようなデザインの日用品や家具が、またどのように使われていたのかをここから少なからず読みとることができる。

戦前期最期の華やかな時代を伝える雑誌

大阪市立大学大学院文学研究科教授 土屋礼子

明治のハイカラが大正のモダンに変わった後どうなったかを、『ホーム・ライフ』は見せてくれる格好の資料である。1930年代後半、日中間の戦禍が大陸で広がるのをよそに、中流以上の家庭、特に京阪神や東京の若い女性たちが、戦前期で最期の華やかな文化を楽しんでいた様が、鮮やかな写真の数々に映されている。新聞社が発行したグラフ雑誌の中でも水準が高く、流行には敏感だが大衆ジャーナリズム的なゴシップには走らず、消費とたしなみとが拮抗した落ち着いた雰囲気は、戦後につながる生活の近代化が夢見た美と合理を伝えている。

ファッション環境が克明に写し出された生活文化の宝庫

文化女子大学名誉教授 柳 洋子

本誌は類例を見ない貴重な生活文化の宝庫である。まずどの写真も性別、年齢、体躯が明白に読みとれる。次にヘア、スタイル、化粧、着衣、アクセサリ、携行品、靴に至るまで克明に写し出されている。さらに玄関周辺のたたずまい、庭の造形、街並、路上、そして職場、ゴルフ場、遊び場、野原などあらゆるファッション環境も明白である。子どもの歓声と遊び、令嬢の優雅さ、女性が連れ立って歩いているという動的シーンが多く、喜び、詩情、明るい会話が自然に読みとれる説得性がふんだんにある。まさに逸品の生活文化通史である。

お奨めします

近現代史／風俗史／社会史／メディア史／文学／服飾／生活スタイル／建築／デザイン／美術・芸術／公共図書館／大学図書館

写真報道時代の誕生を告げる
幻の大判雑誌を復刻!

グラフィック 復刻版 [全8巻]

THE GRAPHIC
明治42年1月～明治45年3月

木下直之 解説

B4判上製函入・総2,500頁
揃262,500円(本体250,000円+分売不可)

あらゆる事象を切り取った写真の数々が明らかにする、知られていなかった100年前の日本の姿。収録写真点数は1万点以上、英文のキャプションも併記。全83号分を復刻。



取扱店

柏書房

〒113-0021 東京都文京区本駒込 1-13-14
TEL.03-3947-8251(営業) FAX.03-3947-8255
URL:<http://www.kashiwashobo.co.jp/> E-mail:eigyo@kashiwashobo.co.jp

国内に極めて残存数が少ない稀観雑誌『ホーム・ライフ』から、昭和戦前における上流階級の生活風景をビジュアルで読み取る

『ホーム・ライフ』について

昭和10年8月に創刊された月刊誌で、昭和15年12月終刊。全66号(内1号分は臨時増刊号)。サイズは縦333mm・横248mmで、ほぼB4判に近い。平均80頁で、8割以上が写真を含んだレイアウトで構成されている。

発行は大阪毎日新聞社、発売は大阪毎日新聞社と東京日日新聞社。同誌の編集長は大毎写真部長の北尾謙之助(1884~1970)が務め、すべての編集後記を北尾が執筆。北尾は創刊号において、その発刊趣旨を「社会文化の波のうごきを、文字からでなく、写真によって美しく視覚化した雑誌」「家庭生活の趣味的、科学的なもの」を取り上げ、「近代家庭のどこに置いても恥しくない日本に一つのすばらしい美しい雑誌」を作りたいと宣言している。

同誌の表紙画は、藤田嗣治・東郷青児・小穴隆一・岡田謙三らが担当、カットも有名画家たちが担当し、また鳩山一郎・小林一三・江戸川乱歩・菊池寛・室生犀星・与謝野晶子・吉川英治など、政治家・実業家・作家らおよそ940名がエッセイなどを寄稿している。

頁見本(41%に縮小)



▲伯爵・伊達興宗邸の子ども部屋



◀侯爵・細川護立の書斎(書斎は6室ある)



▲医学博士・山本誠一令嬢(手には『ホーム・ライフ』創刊号)



▲ヒトラーに扮した近衛文麿(上から2列目中央)



◀ドライブ後に昼食をとる医学博士・中村博光の家族ら



▲衆議院議員・若田均の書斎



▲昭和10年冬流行のオーバー



▲ゴルフの練習をする伯爵・山本清令嬢(祖父は山本権兵衛)



▲鳩山一郎の令息令嬢(右端は威一郎)



▲賀陽宮恒憲王の家庭



▶東京音楽学校教授・宮城道雄の家庭